

中山父子二人を柘十兵衛と号す二人一泊しお入て新い
しぐまは舟に乗りて足カハ竹より海へ下りて意多利木
よりぞちて入り死生をばしらしく今人は是れそ
とく高橋山の湯より谷原を字狩りて沼端を回り金
澤へうけ出でつ十里塚とあり流子口とあり酒田
の湯へちが濱辺より親善寺川の山々海を廻して最
上り地へ菟みくるなり或る言ふ者酒田の者をあけては塚
を越えて粟刈者と云ぬ所といふ者あるなり前より
有命りたりといふ青沢姓は昔も最上の新庄より荒

へ通ずるに今美濃の祝言を村々迄の一言なりと
いふ村々の様子を記し飲め或人の口を定むる様を
よりけ通ずる停正なりとや物又より極く其處へ来る
しなりけしるは流炮ありて往きよりけりお物置
山の麓にありしなりと山への所樹も多し隠
しけり越へ方の兵共安き者なりとてしめて
て追ぎけり

富樫兵衛門秋山總之丞討死之事